

INVITATION

Ehime University Hospital [愛媛大学医学部附属病院広報誌]

VOL

15

2009



患者様から学び、患者様に還元する病院

愛媛大学医学部附属病院

各地の基幹病院との連携で、愛媛県の妊産婦や新生児に安心を

産科婦人科長 伊藤昌春 医師



スタッフ一同で妊産婦さんをサポートします。

私の基本的な担当領域は、産科、婦人科、不妊症です。このうち、産科、特に妊娠高血圧症候群、以前は妊娠中毒症と呼ばれていた疾患を主な研究対象としています。平成8年に愛媛大学に赴任し、医育機関の教員となったことで、婦人科の疾患はもちろん、不妊治療についても理解する必要がありました。現在、「女性骨盤内臓器を対象とする」との見地からみれば、産科と婦人科とに境界線はなく、また「生殖生理を対象とする」との見地からみれば、産科と不妊症の生殖医療とに境界線はありません。このように、産科婦人科の担当医

は、専門領域として3つの分野を分けて考えることは困難でしょう。

中予地区の周産期医療の基幹施設となっているのは、当院と県立中央病院および、松山赤十字病院です。両院の産婦人科医師とは頻繁に情報交換していますし、小児科医もよく存じ上げていますから、意思の疎通ができています。まず、都市圏で起きているような、妊産婦さんの受入れ拒否などは起こらないでしょう。東予や南予では、産婦人科を置く病院が減少していますが、必ずその地域の基幹病院には産婦人科を置き、十分な人員を配置しています。

各地、基幹病院は車で数十分走ってもらえば行ける距離にあるでしょう。基幹病院が受け入れを拒否することはありませんので、妊産婦さんのたらい回しが起こることも考えられません。ただし、病床の空きによっては、他の病院へ移っていただくことがあります。新生児についても、NICU（新生児特定集中治療室）での治療が必要な場



PROFILE

いとうまさる◎愛媛大学大学院医学系研究科 医学専攻 臓器病態制御医学・生殖病態外科学 教授。1972年熊本大学医学部卒業。1977年熊本大学医学研究科産科婦人科学博士課程修了。医学博士。1996年より当院勤務。産科婦人科を専門に活躍。趣味は自ら写真撮影したパノラマ写真などで、絵はがきを制作することや、温泉めぐり。

合、当院に空きがなければ、県立中央病院へととなりますし、逆もまた然りです。

当院は基幹病院としてはもちろん、医師を輩出するという役割は、他に比べて大きいでしょう。産婦人科医は全国でも数が少なくなり、問題視されています。しかし、県内の産婦人科医は、愛媛大学出身者が増えました。愛媛大学の卒業生の多くは、県内に留まってくれます。毎年、2～3名でも産婦人科医を育てることで、徐々にですが、県内全体の産婦人科医は増えています。

私が信条としていることは、後遺症なき患者救命。周産期医療は妊産婦だけでなく、新生児の命も守らなくてはなりません。これらの命をただ救うだけでなく、症状を後遺することなく、救命をすることが大切です。また、産科は訴訟が多いので、争いのない診療を心がけています。そのためには、治療する側と患者様が、同じ価値観で、病気や出産に対して向かっていくことが必要だと思います。これからも、県民の方々の要望に応えられる診療を行い、高度先進医療の導入と体制の整備を行っていきたいと考えます。



分べん室

成長する姿を見守りたい。新生児の先天性心疾患も低侵襲治療が可能に

脳卒中・循環器病センター（小児循環器部門） 檜垣高史 医師



PROFILE

ひがきたかし◎愛媛大学医学部附属病院 脳卒中循環器病センター 准教授。1988年愛媛大学医学部卒業。医学博士。1994～1995年東京女子医科大学 日本心臓血圧研究所に所属。小児循環器を専門に活躍。趣味は中学生から続けている卓球。熱中できるその瞬間が好き。

私は小児循環器を専門としています。生まれつきの心臓の病気、先天性心疾患を主に担当しています。先天性心疾患を持つ新生児は、100人中1人くらいの割合ですから、決して少なくありません。小児循環器の診療の幅は広く、胎児期から母親のお腹の中でも診断が必要ですし、周産期、分娩の管理も重要です。出産後は新生児の集中治療から、心臓カテーテル検査、手術など、治療が始まります。

私たちは、先天性心疾患に対して、胸を開けない、心臓を止めない、より低侵襲なカテーテル治療を積極的に導入しています。実際の治療においても、良い成績が得られています。また、心臓血管外科手術と組み合わせることによって、先天性心疾患の予後は著しく改善されています。子供は必ず成長します。小さな子どもにはリスクが大き

い手術もありますので、今できる治療をできる限り行い、成長を待って、段階的に治療をする方法をとる場合もあります。今は、心臓疾患を抱えた新生児が、無事に大人になることも多くなりました。就学、就職、結婚や出産など、疾患を克服しながら成長する子どもたちには、縦長の診療が必要です。また、成長に連れ、小児科以外の多くの診療科との連携も必要になります。脳卒中・循環器病センターができたことで、横断的な診療の連携が強くなったと思います。

昨年の春にはNICUを増設。さらに増床の予定もあります。心臓カテーテル検査室も、そのまま緊急手術ができる設備を有しています。子どもから大人まで、心疾患のことなら、脳卒中・循環器病センターに相談していただけるよう、私たちはいつでも対応できる体制を整えています。

出産を楽しんで！ スタッフ一丸となって安全性の高いお産のお手伝い

産科婦人科 松原裕子 医師



PROFILE

まつばらゆうこ◎大学院医学系研究科 医学専攻臓器病態制御医学講座 生殖病態外科学 講師。1998年愛媛大学医学部卒業。2002年愛媛大学大学院修了。医学博士。産科婦人科を専門に活躍。趣味は映画鑑賞。映画館で月に5～6本は観ている。

私の専門は産科ですが、当院の産婦人科医は、お産、婦人科の外科手術、腹腔鏡手術まで、全員が全てを担当します。当直も全員が担当するため、出産はもちろん、婦人科の救急まで、広い知識が必要です。不妊治療だけは、専門の医師がおります。

お産は患者様によって、全く違うものです。何度経験しても、それぞれ違い、それぞれの感動があります。緊急の場合もあり、何が起るかもわかりませんが、当院での出産の安全性の高さは、誇れるでしょう。内科、外科、脳外科と全ての診療科がありますから、救急疾患で合併症を起こしたときにも、他科の協力をすぐにおおげます。小児科や小児外科の医師とは、日頃から相談し合っ、妊娠中から産後まで、安心して任せていただけます。県内で、小児心臓外科の医師がいるのは当院だけです。

大学病院は、合併症を抱えた出産だけを扱っているように思われる方が少ないのですが、普通分娩の方でも大歓迎です。出産は医師、看護師、助産師、スタッフ全員が協力して、迅速に安全に行っています。出産は何度も経験できることではないので、楽しんでお産をむかえてもらえるように心がけています。また、お産は病気ではないので、普通の病院にはないサービスを求められることが増えてきました。個人病院のようにはいきませんが、私たちも患者様のニーズにお応えしたいと思っています。現在は、お母さんが新生児と直接肌をつけて抱っこする「カンガルーケア」を実施。出産後、子育ての不安についてアドバイスを、助産師による「子育て支援外来」も行っています。今後はアロマセラピーなども取り入れたいと考えています。

昨今の医療制度改革により、医療のシステムは、施設完結型から地域完結型へと変革が求められ、地域医療連携はますます不可欠な要素となりました。当病院でも医療福祉支援センターを設置し、病院全体で連携強化に取り組んでいるところですが、さらなる促進を図るには医療資源の情報の共有が重要であるとの観点から、この度2007年度版に引き続き「地域連携だより2008-2009」を発刊し、関連医療機関へ配布させていただきました。個人情報保護が懸念される時流の中で、あえて顔写真入りにさせていただいたのは、病院スタッフが連携の重要性を認識している証として受け止めていただければ幸いです。“できるだけ笑顔で!”をスタッフにリクエストしたのですが…いかがでしょうか? どうか直接お手にとってご覧になり、診療の傍らにおいて、ご活用いただけますようよろしくお願いいたします。なお、本冊子について改善点等ご意見いただけましたら大変ありがたく存じます。

◎問い合わせ先：
医療福祉支援センター
TEL：089-960-5917

編集後記

生まれてくる命とそのお母さんに安心と安全を。今回のINVITATIONは新年にふさわしく当院の周産期医療をメインテーマにしました。当院では県内の基幹病院との連携を緊密にして、他県で起こったような妊産婦のたらい回しを絶対に起こさない安心安全な周産期医療を確保しています。またNICU(新生児特定集中治療室)の増設・充実や周産期医療に進む若手医師の育成も進めています。元気な赤ちゃんの泣き声とお母さんの幸せな笑顔にあふれた愛媛県を目指します。

◎愛媛大学医学部附属病院広報委員会
委員長 檜垣貴男

◎表紙の人
産科婦人科の医師・助産師
——新生児室にて——

災害ボランティア研修を実施



平成20年11月15日(土) 附属病院において災害ボランティア研修(第3回)を実施しました。この研修は地元東温市・地域住民・附属病院の三者が一体となり、災害時にも地域で活動できる人材を育成するために実施したものです。介護の基礎を中心に食事介助や清潔行為について研

修を実施した第1回(初級コース)、災害時の対応に関する基礎知識やAEDの使用方法を体験した第2回(中級コース)に引き続き第3回(上級コース)の研修となりました。今回は、合併症を抱える方に対して災害時のように対応すれば良いか、糖尿病や心臓疾患についての講義や、薬剤の取扱いについて講義を受けるとともに、血糖測定や血圧測定の実習を行いました。参加者は一様に真剣な様子で、担当した講師からは「学生よりも真剣」と感想が出たほどでした。研修終了後は、高須賀功東温市長から「災害ボランティア研修修了書」が授与され、今後の活動に対する期待が述べられました。

医療サービス推進委員会 医療サービス室 TEL：089-960-5099

絵画の寄贈



平成20年11月14日(金) 附属病院へ、故岡田朱実氏 作の絵画「馬の情景Ⅱ」が寄贈されました。岡田氏は愛媛の戦後美術シーンで女流画家として活躍し、馬をモチーフにした作品など、数多くの優れた作品を残されました。このたび、同氏の夫である成基さんのご厚意で、附属病院へ絵画が寄贈され、附属病院外来棟1階の放射線部受付近くに設置されました。今後この絵が、附属病院のスタッフや本院を訪れる多くの方の心にやすらぎを与えてくれることでしょう。

クリスマスコンサートを開催



平成20年12月25日(木)、「クリスマスの夕べ」と題し、病院ボランティア「いきいき会」主催のコンサートを開催しました。地域の小学生による地域芸能「伊予万才」の他、プロ歌手によるオカリナ演奏と歌、いきいき会のメンバーによるハーモニカ演奏、病院職員も加わってのトーンチャイム演奏が披露されました。出演者やいきいき会の皆さんのおかげで、入院患者様を中心に多くの方に楽しいひとときを過ごしていただくことができました。

医療サービス室
TEL：089-960-5099

